

2004年1月22日

「明治生命館」の重要文化財消防演習を実施 ～重要文化財の火災予防および保護を推進～

来る1月26日（月）の「文化財防火デー」に合わせ、東京消防庁 丸の内消防署（山元 和美署長）による消防演習が、明治安田生命保険相互会社（社長 金子 亮太郎）の「明治生命館」で実施されます。

同演習は、1998年1月以降、2年毎に実施しており、今回が4回目となりますが、重要文化財の火災予防および保護推進を目的とした消防演習を、民間企業が日常業務に使用している社屋で実施することは、大変珍しいことです。

当社は、今後とも洋風建築を代表する歴史的建造物として重要文化財に指定されている「明治生命館」（別紙①ご参照）の維持・保全に努めてまいります。

<文化財消防演習実施要領>

1. 日 時

1月26日（月）午前10時30分～11時頃（小雨決行）

2. 場 所

明治安田生命「明治生命館」日比谷通り側

東京都千代田区丸の内2丁目1番1号（別紙②地図ご参照）

3. 訓練内容

8階日比谷通り側を出火場所と想定した、以下訓練を実施

消防訓練・・・明治安田生命自衛消防隊による模擬消火

避難訓練・・・明治安田生命職員（選抜）による避難訓練

救出訓練・・・梯子車による8階職員の救出

放水訓練・・・放水車による日比谷通り側への放水

4. その他

ア. 演習内容の説明を同館の北側通用口前で午前10時10分から行ないます。

イ. 自社腕章をご着用ください。

ウ. 少雨決行としますが、ご不明な点はお問い合わせください。

エ. 取材時の事故防止には十分ご注意ください。

○「明治生命館」について

「明治生命館」は、ネオ・ルネッサンス様式のオフィスビルとして、1934（昭和9）年3月に竣工しました。本館の建設は、当時の学会の重鎮であり、東京美術学校（現東京芸術大学）教授であった岡田信一郎氏の設計により、3年7ヵ月の歳月、当時としては最高の技術と資材を投じて行なわれました。

その後、東京大空襲、1946（昭和21）年から1956（昭和31）年までの米軍の極東空軍司令部による接收、対日理事会（日本の占領政策についての連合国最高司令官の諮問機関、4ヵ国の協議機関）の開催など、昭和の激動期をのりこえ、今日まで保存されてきました。

当社では歴史的建築物の保存と活用を実践し、皇居前の風格ある景観を守っていききたいとの願いから、「明治生命館」をこれからも大切に守り続けていきます。

○重要文化財の指定

1997（平成9）年3月21日、当時、文部大臣の諮問機関である文化財保護審議会にて答申が行われ、同5月29日、「大正から昭和初期の洋風意匠を取り入れた建築物を代表するもので、建物の意匠が内外とも優れている」（文部省告示第98号）との指定基準に基づいて「重要文化財」に指定されました。

○建物概要

鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階地下2階建て

建築面積 3,856㎡

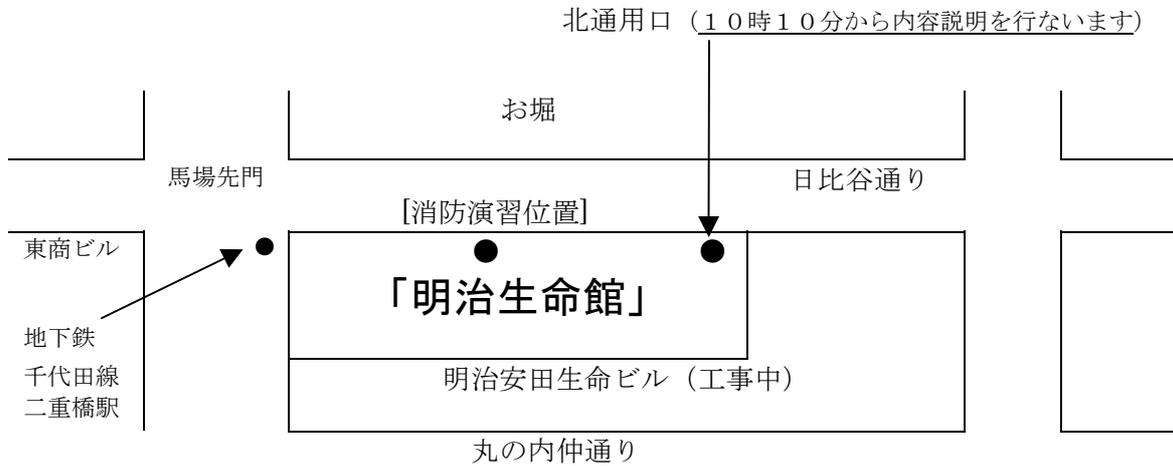
延床面積 31,762㎡

○明治安田生命ビル街区再開発計画

当社では、現在、「明治生命館」を全面保存するとともに、隣接地を含む街区を再開発して本社機能とテナント賃貸をあわせ持つ新建物を建設する「明治安田生命ビル街区再開発計画」を、2004年8月竣工予定で推進中です。

以上

<現地地図>



<ご参考>

○「文化財防火デー」について

1949（昭和24）年1月26日早朝、奈良の法隆寺で、解体修理中の金堂が火災になり、白鳳時代（7世紀末から8世紀初期）に描かれた十二面壁画が焼損し、社会的に大きな衝撃を与えました。

その後も文化財の火災が発生したため、先人たちが残した文化財を守ろうという世論が高まり、1950（昭和25）年に文化財保護法が制定され、1955（昭和30）年からは、消防庁と文化庁の提唱により法隆寺金堂が焼損した日である1月26日を「文化財防火デー」とし、防火施設の点検と整備を行なうとともに、消防演習など文化財防火運動を全国で展開することとしました。

以上